(2019.4改正)

＜別紙１＞

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：えんがわ		種別：地域型保育事業 （小規模保育事業　A型）	
代表者氏名：内田　宏和		定員（利用人数）：　13名（14名）	
所在地：横浜市泉区下和泉1-10-23			
TEL：　045-392-6662		ホームページ：izumi-naeba.net/engawa	
【施設・事業所の概要】			
開設年月日　2010年10月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人　いずみ苗場の会			
職員数	常勤職員：　5名	非常勤職員　4名	
専門職員	保育士　9名		
施設・設備の概要	乳児室（0～2歳児室）　4室 事務室　1室 職員休憩室　1室	調理室　1室 沐浴室　1室 トイレ　1か所	
	木造2階建て 建物延床面積　88.71㎡	園庭　20㎡	

③ 理念・基本方針

【保育理念】
「すべての人々はこの世に必要があって生まれてきている」という思いのもと、どんな子どもも分け隔てなく受け入れ、共に生活をし、充実感のある、楽しい生活の場とする。
【基本方針】
「よく食べること」「よく遊ぶこと」「育ち合うこと」の３つを大事にしている。
【よく食べ】農薬、添付物などを使わない、安心・安全な食材を使った手作りの給食やおやつを食べて丈夫な身体を作る。
【よく遊び】遊びを通して人と関わり、自然に触れ、我慢・努力・勇気、そして優しさや憧れる気持ちを育んでいく。
【育ち合う】園の中だけでなく、地域との関わりを持ちながら、子どもやその保護者、保育士もみんなが関わり会って育つことを保証します。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】
「えんがわ」は、「社会福祉法人　いずみ苗場の会」が運営する地域型保育事業所（小規模保育事業A型）で、0～2歳児14名が在籍しています。2010年に「横浜市家庭的保育事業」として開所後、2015年4月に地域型保育事業所として現在に至っています。横浜市泉区の横浜ドリームランド跡地に建設した「ドリームハイツ」に隣

接しています。すぐ隣りには系列の「苗場保育園」、近隣には横浜市から民間移管により運営を引き継いだ「俣野保育園」があり、連携を深めています。
　隣接の系列連携園「苗場保育園」とは、各種会議、研修会、諸行事、職員交流、給食の搬入、園庭の利用等において、常に連携しています。
【園の特徴】
　保育方針の一つに「育ち合う」を掲げ、「子ども」を中心にして、「保護者」「保育士」、さらには「地域の人々」も含めた子ども共々の育ちを大切にしています。
　一軒家を改築した園舎は家庭的な雰囲気があり、小規模の特長を生かし一人ひとりに丁寧に向き合った保育を心掛けています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年4月1日（契約日）　～ 2022年1月30日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（　―　年度）

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

１．戸外での遊びを通した心と身体の成長

　隣の苗場保育園の園庭では、子どもたちが元気に走り回っています。園庭には、うんてい、すべり台、古タイヤ、三輪車、砂遊び等の道具があり、外遊びの時間を十分に確保して体を動かしています。起伏にとんだ園庭は、段差や凹凸を残しており、脚の力や平衡感覚・体幹が0歳児から自然に身についています。
　天気の良い日は、子どもたち全員で近隣の公園に散歩に出かけています。公園には2歳児が小高い丘にある滑り台で遊んでおり、0歳児はハイハイで丘の上の滑り台の階段の下に向かい、滑り台の階段でつかまり立ちをして階段を登っていました。
　遊びを通して、人と関わり、自然と触れ合い、心と身体の成長を促しています。

２．食を楽しむ活動の充実

　「食は生命」と考えて、食べることを大切にしています。給食ではできる限り農薬を使わない安心・安全な食材を使い、給食やおやつを手作り（調理は苗場保育園）しています。
　年間食育計画を作成し、計画的に食育に取り組んでいます。野菜の絵本を読み、野菜を育てて収穫しています。芋ほりに参加し、芋を洗い、園庭で焼き芋にして、みんなで味わっています。苗場保育園の園庭のミカンや金柑の色づきを観察し、収穫しています。生の魚を見て、触る経験をしています。サンマを園庭で焼いています。五感を十分に使いながら、安心できる保育者や友だちと一緒に、食に関する多くの体験を楽しんでいます。

３．一人ひとりの育ちを大切にした保育

　クラスごとに担当制を取り入れ、できるだけ同じ保育者が生活全般を共有することで、子どもが安定して過ごせるようにしています。職員は着替え・手洗い・靴の着脱等、時間がかかっても急がせたりせず、気持ちや時間にゆとりをもって見守っています。苗場保育園の「わらべうた研修」に参加し、0歳児から「わらべうた」を取り入れ、一人ひとりに丁寧に向き合った保育の実践に努めています。

◇改善を求められる点

１．苦情受入れ体制の整備・改善を

園内に苦情解決の仕組みについて掲示するとともに、保護者が匿名で苦情を申し出る機会の一つとして、意見箱の設置が期待されます。

また、「苦情対応マニュアル」には、相談や意見、苦情を受け付けた際の記録の書式や記録の方法について定めることが望まれます。

２．指導計画の見直しを

現在の年間指導計画、月間指導計画には施設長の確認欄がありません。施設長の確認欄を設け、標準的な実施方法に基づいて実施されているか、確認する仕組みを作ることが望まれます。また、年間指導計画には自己評価欄がありますが、記録がされていません。週案には、週の振り返り欄がありません。

保育士が、自らの保育実践を振り返り自己評価することにより、さらなる保育の質の向上に努めることが望まれます。

３．数値目標等を取り入れた具体的な事業計画の策定と、保護者への周知

隣接の系列連携園の苗場保育園と共通の中長期計画及び単年度の事業計画内容を策定しています。中長期計画や単年度の事業計画には、数値目標や具体的な成果目標を設定するなどして、実施状況の成果等がわかるようにすることが望まれます。

保護者に対しても、事業計画（保育目標や保育の計画、環境整備等）について、さらに周知していくことが望まれます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

平成２２年に家庭的保育事業所として開園しましたが、隣接する同法人の苗場保育園とは施設として分かれているものの、理念や方針、保育観を同じくして、行事も保育も常に一緒に歩んできました。しかしここで今一度、えんがわとして単独で保育を見つめ直すきっかけにしたいと思い受審をすることにしました。

受審経験の少ない職員もいる中で、職員ひとりひとりが自己評価を行い、保育（自分の思考）を言葉にし、文字にまとめ、話し合うことで、改めて職員が保育観を共有したり、課題に気付いていったりすることを目的としてすすめていきました。

保護者の皆様からのアンケート結果や、評価機関とのやりとりを通して、少人数、担当制、異年齢の関り、一人ひとりを大事にした保育など、えんがわとしての保育の強みを再確認し、自分達の保育に自信を持てた部分もあれば、体制化、書式化など、具体的に改善が求められる課題に気付けたことは大きな収穫となりました。丁寧に取り組み、早速改善をしていきたいと思っています。

丁寧な聞き取りで適切な評価をしてくださった評価機関の皆様、そしてご多忙にもかかわらずアンケートにご協力をいただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

えんがわ　　施設長　内田　宏和

⑧第三者評価結果

別紙２のとおり